

令和6年度事業計画

I 法人本部

1. 広報普及活動

- ① 定期刊行物（いただきます）他会員向け情報の発信 年2回
- ② 正会員向けおよび子ども食堂メール会員へメールニュースの発信
- ③ 各種寄付ページの更新、内容充実（Yahoo! ネット募金・ぽちっと基金・つながる募金、遺贈寄付 Readyfor との連携等）

2. 研修活動

- ① 「ミールズ・オン・ホイールズ - 日豪協力 40 周年を祝う」プロジェクト（豪日交流基金助成）
開催日：2024年9月25日 or 26日
会場：キューピー渋谷オフィス2階ホール
内容：このプロジェクトは、オーストラリアと日本のミールズ・オン・ホイールズ団体の長年にわたる関係を強化し、深化させることで、もって共通の課題と革新的な解決策を直接交流することで議論を進めるために主要関係者との会議、視察、表敬訪問、日豪シンポジウム（集合・オンライン兼用）を開催
- ③ 食でつながるフェスタ全国集会 in 東京 2024
開催日：2024年9月25日 or 26日
※日豪シンポジウムと合わせて開催を予定
- ③ 第14回 地域の居場所づくりサミット（主催キューピーみらいたまご財団に共催協力）
開催日：6月22日（土）
会場：オンライン開催
内容：食育や食の居場所づくりに関する講義、事例報告
- ④ 第15回 地域の居場所づくりサミット（主催キューピーみらいたまご財団に共催協力）
開催日：11月9日（土）未定
会場：オンライン開催
内容：助成事業説明会、食育や食の居場所づくりに関する講義、事例報告
- ⑤ 食事サービスを考えるつどい（東京食事サービス連絡会と共催）検討中
開催日及び会場：未定

3. 活動審査・評価等

- ① みずほ教育福祉財団 電気自動車寄贈団体の推薦

- ② キューピーみらいたまご財団助成プログラム B「食を通じた居場所づくり支援」助成事務局
- ③ 毎日新聞東京社会事業団「こども食堂運営継続応援プロジェクト」助成事務局
- ④ 24時間テレビ助成事務局
- ⑤ ニチレイ MIRAIterrace 財団 「食を通じた居場所づくり応援プロジェクト」助成事務局

4. 食環境の整備・ロジシステム推進活動

①食でつながるフェスタ開催・研修等を通じたネットワーク形成支援

シンポジウムへの講師派遣等の他、2017年より実施している研修会「食でつながるフェスタ」の開催支援を行う。食フェスタ等を通じて、運営ノウハウ（衛生管理・食育・子どものケアや関わり方など）に関する情報発信、モデル事例伝播、活動地域の相談機関の紹介など、個別相談の対応を行う。

実施地域：休眠預金事業の実行団体の活動地域 7, 8 地域程度で共催

各地で実行委員会形式にて 8 月～2 月頃までに開催予定

参加対象：こども食堂・子どもの居場所運営団体、子ども支援関係者、自治体、社協、企業、学生等、幅広く参加を募る

②企業等各種団体の社会貢献活動との連携

- ・Yahoo 募金／ぼちっと募金ページの運用管理
- ・アサヒ飲料および三井住友ファイナンス&リース

子どもの居場所づくり活動に関心のある方や「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」他本会の活動の趣旨に賛同いただける企業・行政・団体等に本自販機を設置いただく。本自販機を設置いただくことで収益の一部およびリース料の一部が寄付に充てられる。その寄付をプロジェクトに充てることで、持続可能な仕組みとなることを目指す。

③各種企業からの協賛・支援獲得

【食品・物品の寄贈】ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムの仕組みを活用して、キューピーみらいたまご財団／ロッテ／日新製糖／ニッスイ／アサヒグループ食品／ナルミヤ インターナショナル／能美防災他からの寄付食品のマッチング

定期的な食品の寄贈を受ける他、他企業や生協・行政等から寄贈を受け、本プロジェクトを通して分配することで、プロジェクトの課題を明らかにし、改善に取り組むとともにブラッシュアップを図る。そのほか多様なセクターが参加できる学習会を開催し、本プロジェクトに対する理解の醸成と参画を働きかける。また本年度は、常温品の寄贈の他に冷凍食品のマッチングを推進する。

【資金による協賛】2023 年度に協賛いただいた企業に対し継続協賛を呼び掛ける他、新規の協賛獲得に向け学習会や催事での発信を行う。

【その他】金融系企業が保有する施設の提供について相談が寄せられている。双方の条件がマッチングする場合にはランチとしての運用を検討する。

④ロジシステム説明会の開催

企業・行政・活動団体がゆるやかに連携することで、食を通じた居場所づくり活動が持続可能な活動となることを目指すとともに、「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」への参画を呼び掛ける。

【開催時期】年3回（行政向け：2024年夏ごろを予定、企業向け：2024年春・秋冬ごろを予定）

【プログラム概要】全国的な食料支援の取り組み状況の説明／各自治体や民間機関・団体による好事例の共有／グループディスカッション など

⑤物流支援プロジェクト検討委員会の開催

【実施概要】ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムの推進もって全国の食支援活動団体へ寄贈食品が行き届く環境を整備するため、物流・保管の課題解決に取り組む。

【頻度】2か月に1回程度

⑥ロジシステム（WEB）の保守・開発

引き続き「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」に賛同いただける拠点・団体を対象にシステムへの登録案内を行う。また登録後の利用状況を確認し、利用されていない拠点・団体については動画マニュアル等を案内し個別フォローすることで利用率を向上させる。

5. ネットワーク形成

①「広がれ、こども食堂の輪！」推進会議 の開催

地域での継続的ネットワーク支援を目的に、子ども支援関係機関が出会う場として推進委員会を開き、その中で小規模な学習会を開催する。こども食堂サポートセンターの運営・支援方針の検討、先進的な活動事例や自治体・社協・企業・生協等による支援の好事例を共有することで、団体として運営をサポートできる支援体制の構築を図る。

【開催頻度】2024年度は年4回程度、都内にて開催予定

【メンバー構成】25名程度を予定。こども食堂、プレーパーク、児童館、母子生活支援施設、子育てひろば、ボーイスカウト、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、各地域のネットワーク他の子ども支援関係機関

【内容】委員会／事業進捗状況の共有、こども食堂サポートセンターの運営・支援方針の協議学習会／報告者を招いて先駆事例を報告し、モデル事例を共有・伝播する

②子どもの居場所づくりのための SDGs 交流セミナーの開催

多様な機関による協働プラットフォームの構築を目指し、「子どもの居場所づくり推進にむけた交流会」を年1回程度開催する。日頃支援いただいている企業様のほか新しい企業様にも声をかけて実行団体も交えて新しい連携のきっかけづくりに貢献する

【内容】学習会を通じた先駆事例の共有、協働に向けた意見交換

③海外との連携

3月にテーブルフオーツUSAのデボラ氏(代表)にお声がけして、「広がれ、こども食堂の輪!推進会議」にて事例報告会を依頼。MOWSA(ミールズ・オン・ホイールズ南豪協会)との交流プロジェクトを本年度に取り組むことに合わせて、海外の食支援活動団体との連携を模索する

6. 制度政策・活動推進に関する委員会等

- ①東京都社会福祉協議会「地域福祉推進委員会」(平野)
- ②広がれボランティアの輪連絡会議構成団体
- ③新宿区協働支援会議委員(平野)
- ④孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム会員
- ⑤「広がれ、こども食堂の輪!」推進会議構成員・事務局
- ⑥食品ロス削減の推進に関するワーキンググループ、他

7. その他

- ①都道府県・市町村等の生活支援サービスの創出に向けた人材育成研修受託
- ②支え合いを広げる住民主体の生活支援フォーラム開催協力(住民参加型在宅福祉サービス団体全国連絡会、全国移動サービスネットワークとの共催)
- ③大学と連携したインターンシップ受け入れ、講義への講師派遣(社会的企業研究会)

II プロジェクト

1. 休眠預金活用事業 「多世代が食でつながるコミュニティづくり」[2022年度~2025年度](確定)

【目的】対象者別制度や枠組みに囚われない食に関する居場所の機能及び地域住民のエンパワーメントに着目し、地域に住まう様々な人のごちゃ混ぜ感を前提とした「共助」モデルを創出する。

【課題と方策】現在講じられている様々な施策は、行政のタテ割りや利用対象者別に細分・限定されている現状があるが、食は子どもから高齢者まで全世代に関わる事であり、まちづくり、学習支援、若者、社会的養護や貧困の課題に関わる多様な居場所との融和性ももつと考える。本事業では居場所の伴走・中間支援機能を果たし、行政・企業・社協他まちづくり団体等との協働促進を担うほか、居場所に関わる既存の地域福祉人材(生活支援コーディネーター・地域福祉コーディネーター)が充実するための研修活動を広域的(複数市域)に行うことで、持続可能な居場所づくりのためのプラットフォームを構築する。

【事業実施期間】2022年11月~2026年3月

【実行団体】NPO法人いるか、(社)コミュニティシンクタンク北九州、(社)ひとり親家庭福祉会ながさき、NPO法人U.grandma Japan、(社)いなかパイプ、NPO法人ワーカーズコレクティブういず、(社)青森県社会福祉協議会、(財)北海道国際交流センター

【重点目標】居場所に関わる既存の地域福祉人材(生活支援コーディネーター・地域福祉コーディネ

ーター)が充実するための研修活動を広域的(複数市域)に行うために、各地域の協議体形成・食フェスタやロジハブ説明会開催に向けた支援、団体の組織基盤、内部評価体制整備に対して評価アドバイザーとともに助言・伴走する。

【事業費】71,105,000円(うち実行団体への助成49,000,000円)

2. 休眠預金活用事業 「相談機能付き食支援体制整備事業」〔2024年度〕(確定)

【事業概要】見守り・個別支援活動に取り組む食支援活動団体へ伴走支援をしながら相談支援・物資支援を行う中間支援団体に対して、コーディネートにかかる費用及び支援食品・物資の購入費用を助成する。生活課題が深刻化した地域の子ども、子育て世帯へこども食堂等居場所と連携しながら食支援を通じたニーズ把握、アウトリーチ活動を行うための取組を支援する。

【事業実施期間】2023年11月～2025年3月

【実行団体】NPO法人ユナイテッドかながわ、(社福)琴平町社会福祉協議会、NPO法人子どもたちの未来を応援するオアシス丸亀、NPO法人フードバンクセカンドハーベスト沖縄、一般社団法人つながり探究所、(社福)那覇市社会福祉協議会

【総事業費】90,522,000円(うち実行団体へ助成:63,000,000円)

3. MOWSA(ミールズ・オン・ウィールズ・サウス・オーストラリア)交流プロジェクト

南オーストラリアのアデレードにあるMOWSA、サウスオーストラリア・ミールズオンホイールズ協会との交流を継続している。今年度は南オーストラリアの団体を招致し、豪日交流シンポジウムを開催する。法人本部と活動拠点への視察、互いの食支援活動の情報交換及びMOWSAメンバーとの交流を図る。

来訪予定日:2024年9月23日～28日 プロジェクト自体は5月の日豪MOW会議より開始。

豪日シンポジウムの開催:2024年9月25日または26日予

視察先(活動拠点):老人給食協力会ふきのとう、支え合う会みのり、あかねグループほか

事業費:4,370,000円

(豪日交流基金 \$33,700.00=3,300,000)、(自己資金\$11,000=1,070,000円)

4. 厚労省 令和6年度老人保健健康増進等事業「『食』を通じた高齢者の居場所づくり活動への支援プラットフォームの形成に関するモデル事業」

【申請事業概要】「食」を通じた高齢者の居場所づくりに取り組む活動は、担い手の高齢化や資金不足の課題をもつ団体が多い。これらの活動が継続できるよう、第1層/第2層協議体が食材や活動資金、人材等のリソースを地域の活動に提供できるようになる必要がある。そこで、既存の第1層協議体を設置している自治体をモデル地域とし、モデル地域の協議体に対するネットワーク形成支援をしながら、その協議体がネットワークを広げていくプロセス等を調査する。また最終的にモデル事例の報告として、協議体関係者/生活支援コーディネーター/市区町村担当者等を対象とした成果発表会を開催する。

【事業実施期間】2024年4月～2025年3月

【総事業費】15,996,000円

5. 休眠預金事業「食を通じたセーフティネット構築にむけた、居場所活用プログラム構築事業」(仮)

〔2024年度～2027年度〕(公募された場合は申請を予定)

【申請事業概要】 ども食堂等どもの居場所づくり団体がコロナ禍により、在宅への食料配布時における、ひとり親家庭や生活困窮世帯における生活課題を発見する機会があると聞き及ぶ。しかしながらこうしたインフォーマルな在宅支援に取り組む団体の実態が分かりづらいこと、また公的な福祉制度外で活動をしていることから団体活動に対してフォーマルな支援体制は整備されていない。本事業は、こうした活動をしているども食堂等の居場所づくり団体を支援する中間支援のモデルをタイプ別に各地で展開することで、「食＋ソーシャルワーク」の機能の有用性と団体支援のノウハウの共有化を図る。

本事業を推進するにあたっては、企業の社会貢献を促すために寄贈食品を全国に配分するしくみである「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」の導入を図ることで、各地の居場所づくり団体に対する支援として、中間支援組織と連携することで、「食＋ソーシャルワーク」のモデルを普及するための環境整備に努める。

【事業実施期間】 2024年12月～2028年3月

【想定する実行団体】 社会福祉協議会のほか、高齢者の居場所作り支援を行う活動団体・中間支援団体・まちづくり団体等

【総事業費】 220,000,000円